

平成 28(2016) 年度

第 11 期 短期インターンシップ事業報告

働き方を自分でデザインするこれからの自分に必要な視点とアクションを探し

【目的】 学生が主体的に身近な課題として男女共同参画を学べるきっかけをつくり、将来を見通した自己のキャリア形成に役立て、将来、男女共同参画社会の実現に貢献できるような人材育成を目的として実施する。

【内容】 男女共同参画の視点で防災・デートDVなどをテーマに取り組む当センター事業の企画や運営、情報誌づくりなどを体験。今年度は3つのグループに分かれて取り組んだ。

【実施期間】 2016年8/9(火)～8/29(月)までのうち全7日間

※9(火)・10(水)・17(水)・18(木)・24(水)・28(日)・29(月)で実施。

【実施場所】 川崎市男女共同参画センター、各取材場所等

【主催】 川崎市男女共同参画センター

【対象】 大学3年生以上の就職活動予定者8名(学部学科不問)

【募集・選考】 6月～7月中旬：募集開始、書類審査及び面談／7月下旬：参加者の決定

【この研修の特徴】 センターの職員が今年度実施予定の事業に実際に関わるため、座学を中心とした研修にはない、地域の男女共同参画の実情や業務としていろいろな立場の働き手と関わる事ができる。

デートDV

について学んだチームは？

このチームでは、デートDVの予防に取り組んでいる認定NPO法人エンパワメントかながわ阪口さんへインタビューさせていただきました。
『数字で見る川崎市におけるDVの現状と市民の認識 -かわさきの男女共同参画データブック-』として、数値やグラフをなど視覚的表現を用いて、川崎市のDVの現状をわかりやすくまとめた冊子になりました。



関わった事業は、
こんな風に形になりました！



男女共同参画の視点で防災

について学んだチームは？

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクトのメンバーの三村さん、菅さんの2人にインタビューをしました。災害時、女性の視点が置き去りにならない防災のまちづくりを進めていくため、生活に根ざした身近な経験値や知恵を活かしてライフスタイルに合う日頃の備え、防災・減災の取り組みを続けています。

彼女らと8月末の真夏の暑さも忘れて、一生懸命、川崎市の主催する防災訓練にて来場者へアンケートをとりました。

男女共同参画の視点からの防災アクションリサーチ事業の中でアンケートの集計結果が報告書のデータとして活かされました。



情報誌「すくらむ」の取材

について学んだチームは？



このチームでは、カラカサン～移住女性のためのエンパワメントセンターの山岸素子さんへ情報誌のインタビューに合わせて取材させていただきました。『すくらむ (vol.55)』の特集として、外国籍であることがもたらす女性と子どもの困難についてという記事になりました。

関わった事業は、
こんな風に形になりました！



参加者の感想

全7日間は本当にあっという間で
濃い研修機会でした！

